

図書館報 ぷらっつ★篠崎



041号

「特集」
辞典・字典・事典

3頁
そのメロディに魅せられて
「交響詩 わが祖国（全曲）」

4頁
人物ブックマーク
「ヨシ・セバステイアン・パッパ」

4頁
スタッフのセレクション！
「キッチン」吉本 ばなな著



記号や符号の使い方を 表現の幅を広げよう！



今回は、特集ページのテーマに沿って、私のお勧めする辞典をご紹介します。

みなさんは文章を書くときに句読点、記号、符号は気にしていますでしょうか。文章といっても、難しく考えることはありません。スマートフォンや電子メールを使うようになり、普段から文章を書いたり、打ったりしています。記号や符号を何気なく使う場面があると思います。

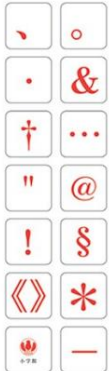
学校では基本的になくぎり記号を学習するだけです。そのために誤った使い方をすることが起きてしまいます。例えば、受験やレポートのときに原則使用しない「？」を使ったりしてしまうのです。ちなみに、本書によると和文で「？」が使われるようになったのは1887年ごろからとあります。

さて、みなさんは「。」をどのように呼んでいますでしょうか。なかつん、ぼつ、中黒などなど、一つの記号や符号にはたくさん読み方や意味があります。それらの使い方と例が示されているので、知っているのと文章を書くときに選択肢が増えて書きやすくなり、表現の幅が広がります。パソコンのキーボードによる入力方法も記されているので実際に記号や符号を使用したいときに便利です。

From 館長

句読点、記号・符号活用辞典。

小学館辞典編集部編



「句読点、記号・符号活用辞典。」
小学館辞典編集部編
小学館
801ク
篠崎ほか所蔵

第41回 「江戸川まいにんぐ 都営新宿線と 篠崎」

江戸川区内のイベントやスポットをスタッフが調査して身近な情報をお届けする、地域密着型のコーナーです。

1960〜70年代、首都圏の人口増はますます激しくなり、通勤難は深刻でした。区内では都電廃止以降、代替交通機関としてバス路線がありました。都心部へのアクセスには総武線・営団地下鉄東西線が中心で、その乗降客の増加に、すでに混雑の激しかった両路線の輸送力は限界に近づいていました。

1978年の篠崎地区の人口はおよそ4万2000人で、10年前（1968年）のざっと2倍に増加しています。都心に近く比較的地価も安かった篠崎には、サラリーマン世帯がマイホームを求めどんどん集まりました。しかし、当時朝のラッシュ時には最寄り駅の総武線小岩駅まで直線距離で約5キロなのにバスでは約30分もかかり、「陸の孤島」というありがたくない名で呼ばれていました。

1968年（昭和43年）の都市交通審議会答申第10号において都営新宿線は初めて計画されました。当初は新宿駅・住吉駅間までの計画でしたが、江戸川区や千葉県の交通事情や総武線・東西線の混雑の緩和が考慮され、計画も徐々に東延伸。建設費の高騰などで一時東大島駅以東の建設が休止された期間もありましたが、区民の強い要望もあり、無事1986年（昭和61年）に篠崎駅までが開通・開業し、1989年（平成元年）に本八幡駅までの全路線が完成しました。現在は新宿まで直通でおよそ40分。篠崎の通勤難も解消され、便利な区民の足として重宝されています。

便利さの一方で、多くの田んぼは宅地となり、篠崎の田園風景は昔のものとなりました。田んぼの遥か向こうに小岩駅を見ることができた、そんな、もう戻らない風景まで欲しがるのは贅沢なのでしょうね。用水路の一部は親水緑道となり、今も水面に昔の思い出を映しています。



参考資料

「電車deエンタテインメント」
「東京都交通局100年史」

小学館プロダクション編
東京都交通局編集

小学館プロダクション
東京都交通局

RK1-68
K3-68

篠崎所蔵
篠崎ほか所蔵

大人のための映画会 ライブラシネマ篠崎

「キング・コング」

4月18日（土）14時開演（13時30分開場）

場所：篠崎文化プラザ 講義室
定員：70名（当日受付、先着順）
どなたでも参加できます

モーツァルト 伝説の録音を聴く

講師：大原 哲夫 氏（エディター・作家）

5月24日（日）14時開演（13時30分開場）

場所：篠崎文化プラザ 講義室
定員：50名（事前申込み制、先着順）
5月2日（土）14:00から図書館カウンター
またはお電話にて受付します。

これまでは忠実な再生が困難だったSPレコードで残された貴重な音源の数々を、DSD録音によって復刻・CD化した全3巻の記念碑的全集『モーツァルト 伝説の録音』。その編集を担当した大原哲夫氏をお招きして、当時の時代背景を解説していただきます。解説の合間にこだわりのオーディオで名演をお聴きいただけます。

人物ブックマーク

人物ブックマークとは、著名人とその著作および関連本を紹介するコーナーです。

第三十葉

ヨハン・セバスティアン・バッハ

作曲家ヨハン・セバスティアン・バッハ。その名前だけでしたら、おそらくほとんどの方が聞いたことがあるでしょう。しかし、彼がどのような音楽人生を歩んだかなどは、知らない方も多いのではないのでしょうか。

バッハは1685年にドイツのアイゼナハにて誕生します。音楽家一家に生まれた彼は、幼い頃から音楽に熱心でした。例えば、兄が持っていた作品集を演奏したいがために、夜な夜な月明かりで写譜し、6カ月かけて写し終えたとのこと。学校を卒業後はヴァイマルという地で従僕兼バイオリニストという役職で就職します。その後は、オルガニストや楽師長、宮廷楽長、教会や都市の音楽監督など、転職を繰り返します。そして、仕事をこなしながら作曲活動も行っていました。彼は、65歳で死ぬ直前まで作曲をし、残されているものだけでも1000以上もの曲を作りました。

バッハは生涯で2回結婚しています。2人の妻との間には20人もの子どもがいます。彼の死後、莫大な数の楽譜はその妻や子どもたちに譲られました。が、貧困のために売ったり人に渡したりして、ばらばらになってしまいました。そして、バッハの作品は一部の人たちを除いて久しく世間から忘れ去られてしまいました。しかし、バッハの死からなんと79年後にメンデルスゾーンの指揮による『マタイ受難曲』の演奏で注目され、彼の作品は再び世に出ることになります。彼の優れた音楽の才能は、消すことのできないものだったということなのかもしれません。そんな素晴らしいバッハの作品を是非一度聞いてみてはいかがでしょうか。

関連書

「J.S.バッハ」

川端 純四郎著 日本キリスト教団出版局 762カ 篠崎所蔵

「知っているようで知らないバッハおもしろ雑学事典」

那須田 務ほか著 ヤマハミュージックメディア 762シ 篠崎ほか所蔵

「もし大作曲家と友だちになれたら……」

ステイブーン・イツァーリス著 音楽之友社 76 中央ほか所蔵

「キッチン」

吉本 ばなな著 新潮文庫 BFヨ 篠崎ほか所蔵

この物語は主人公のみかげが、唯一の肉親であった祖母を亡くすところから始まります。祖母を失った悲しみや寂しさ、家族が誰もいない孤独感など、色々なものでみかげは疲れ切っていました。そんな時、祖母が生前親しくしていた大学生の雄一が現れます。そして、雄一と彼の母のえり子の誘いで、みかげはしばらく雄一の家と一緒に暮らすことになるのです。

祖母を亡くしてからのみかげは、台所で寝るようになりま。それは、誰もいない真つ暗な家の中で、冷蔵庫のかすかな電源の音がみかげの孤独感を和らげたからです。また、かつては好ましいと思えた昔の恋人の輝くような明るさも、今の自分には光がきつすぎるように感じ、むしろリビングの窓辺にあるちっぽけな植物たちの緑に安らぎを覚えました。みかげにとつて、台所のそばは家の中で一番安心する場所となりました。身近な人の死の体験は、みかげに孤独感を紛らわせる行動をさせ、疲れ切った心は以前とは違う物事の捉え方をさせました。主人公の繊細な心は、普段私たちが気にしないような日常の些細なことに、敏感に反応します。それは睡眠や食事、人との向き合い方など、生きていくうえでとても大切なことであるように思います。

この話で描かれているのは、避けられない死というものとどう向き合い生きていくかです。みかげは孤独感や喪失感に押しつぶされそうになりながらも、周りの人やものから力をもらい、次の段階へ進んでいきます。人生で何度かは陥るであろう絶望のどん底から再び自分の人生を歩き出すまでの、人生の休息時間を描いた話です。

篠崎図書館で働くスタッフが選んだおすすめ本を紹介します。

編集後記

春はみたらし。桜を見ながら、みたらしだんごをいっぱい食べたいです。(風雲ふわふわ丸) / 今回の特集をきっかけに、買ってずっと読んでなかった『舟を編む』をやっと読めました。(かき氷職人) / 花粉にいたぶられないためにマスクをしています。すぐ息苦しくなって死にそうになってしまいます。いま花粉とマスクが憎いです。(M.弱尊)

編集・発行：江戸川区立篠崎図書館

住所：〒133-0061

江戸川区篠崎町7-20-19

篠崎文化プラザ内

TEL:03-3670-9102

[しのぎ文化プラザHP]内篠崎図書館ページ

<http://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/>